令和４年７月国見町教育委員会定例会 会議録

１．招集日時　　令和４年７月２２日（金）　午後５時１５分
２．招集場所　　観月台文化センター　第１会議室
３．出席委員　　１番委員　髙橋　幸子（教育長職務代理者）
　　２番委員　志村　裕美
　　３番委員　中村　裕美
　　５番委員　菊地　弘美（教育長）
　欠席委員　　４番委員　引地　　亨
４．説明のため出席
　　教育次長　　東海林八重子
　　学校教育課長　　大勝　晴美
　　幼児教育課長　　佐藤　温史
　　生涯学習課長　　小野　笑子
　　指導主事　　高橋　正浩
５．書　　記　　主任主査兼学校教育係長　　五十嵐佐和
６．傍聴者　　なし
７．開　　会　　午後５時１５分
８．教育長あいさつ
９．会議の成立　　教育長が、教育委員半数以上の出席であり、会議が成立していることを宣言した。
10．会議録署名人　会議録の署名人について１番 髙橋幸子委員、２番委員 志村裕美委員を教育長が指名した。
11．会期の決定　　教育長が会期を諮り、本日１日とすることを決定した。
12．会議録の承認　事務局より６月定例会会議録の概要について説明し、異議なく承認された。
13．教育長報告
　⑴新型コロナウイルス感染の状況について、資料に基づき説明した。
　⑵教育長出席会議等について
　　教育長の出席会議、行事等について、別紙資料のとおり報告した。
１４．協議・報告
　【報告事項】
　⑴国見町スクールバス運行検討委員の人事について
　　学校教育課長より、別紙資料に基づき委員の人事について報告した。

　⑵松田家住宅 登録有形文化財（建造物）の登録について
　　生涯学習課長より、報道発表、建造物の詳細について資料に基づき報告した。

⑶各課から

１学校教育課報告

① 国見町教育支援センター「ステップ」開設について

６月２８日（火）から体験通級がスタートした「ステップ」について、別紙のとおり報告した。

② 国見町いじめ問題合同会議の開催について

スマホ所持にかかるトラブルなどについて、別紙のとおり報告した。

③ コミュニティ・スクール委員会の開催について

小学校の授業参観及びグループ熟議について、別紙のとおり報告した。

④ スクールバス運行検討委員会について

７月１２日に開催した第１回スクールバス運行検討委員会について、別紙のとおり報告した。

⑤ 地域活性化起業人委嘱状交付について

地域活性化起業人４名に対する委嘱状交付ついて、別紙のとおり報告した。

⑥ 町道２０４９号線「通行止め」による中学校通学路変更について

拡幅工事に伴う通学路の変更について、別紙のとおり報告した。

２幼児教育課報告

① 子どもクラブ・預かり保育の夏休み期間中の対応について

開所期間、開所時間などについて、別紙のとおり報告した。

② 職員の普通救命講習について

各施設の実施の予定などについて、別紙のとおり報告した。

③ JA ふくしま未来から幼稚園児にもものプレゼントについて

幼稚園児への桃のプレゼントについて、別紙のとおり報告した。

④ 新型コロナウイルス感染症による閉園等について

感染拡大防止のための閉園等について、別紙のとおり報告した。

３生涯学習課報告

① 公民館事業について

くにみ観月台カレッジ「町長講話～過疎について～」について、別紙のとおり報告した。

② 地域学校協働本部事業について

国見っ子わんぱく広場「ニュースポーツ体験」、少年仲間づくり教室「タグラグビー」「キャンプオリエンテーション」について、別紙のとおり報告した。

③ 図書事業について

「子ども移動図書館」について、別紙のとおり報告した。

④ 社会体育事業について

「県民スポーツ大会県北地域大会激励金交付式」及び「県民スポーツ県北地域大会」について、別紙のとおり報告した。

⑤ 芸術文化事業について

ＮＨＫ公開収録「民謡をたずねて」及び「キッズシアター」について、別紙のとおり報告した。

⑥ 今後の予定について

夏休みからの予定について、別紙のとおり報告した。

⑦ 国見町体育施設の今後の在り方についての意見について

国見町スポーツ推進委員会議、くにみ観月台カレッジ、社会教育委員会議での意見について、別紙のとおり報告した。

【協議事項】

(1)『国見の子どもたちに望むこと　こんな子どもに育って欲しい』

教育長より、前回のやり取りの中で学力だけじゃないとの意見が上がったが、それも踏まえ、これからの教育の在り方について意見交換ができたらよいと説明があった。

各委員からは次のような意見が出された。

髙橋委員：優秀な子どもを育てても町外に出てしまう。「一芸に秀でる」ではないが、勉強面だけが大事ではなく、中学卒業後に漁師さんになって立派になった子の話もある。県北中学校では職場体験の事前学習はどのようなことを行っているのか聞いてみたいと思っていた。卒業した先輩の話を聞いたり、地域のケーキ屋さんやおまわりさんの話を聞いてミーティングを行ってから職場体験を行う中学校もある。先日プレゼンをしていた佐藤君のような子を国見に残したいし、そういう子を何人も育てたい。

志村委員：わが子を国見で育てて、それを思い出しながら未来の子にどのように育ってほしいかを考えたが、教育ビジョンにある「自ら学び、心豊かでたくましく、郷土愛する国見の子」ここにすべてが集約されていると思う。国見でいろいろな経験をしてほしい。わが子は大木戸小学校で小さい学校だったが、いろいろな場面で地域の方が携わってくれていたのを見ていたし、少人数だったので勉強も細かいところまで指導してもらった。

一つは、様々な経験をすることで自分のやりたいこと、興味のあることを見つけてほしい。二つ目は、早い時期から幅広い年代の方との関わりを持ってほしい。自己肯定感が大事で、自分を否定せず、これでいいんだという気持ちを芽生えさせれば、他人も肯定することができるし、優しくできる。三つ目は自己決定力が大事で、大人になればなるほど様々な場面で選択することが増えてくる。息子が高校の卒業文集で「自分で選択することの大切さを知りました」と書いていた。大学受験の時など大事な場面で自ら選択してこなかったのではないか、との思いがあったようだ。小さいうちから訓練をして、自ら選択する力を備えてほしいと思っている。

最終的には、どんな道に進むのか、国見で将来の姿を探しながら成長してほしい。そのために一貫教育や生涯学習、総合スポーツ、その中で地域とのつながり

を連携させ、大人も巻き込みながら教育の場を作っていければよい。

　気がかりなのは、一学年一クラスになるかもしれないこと。その時の教育の対応も早めに考えていかないといけない。

高橋委員：小さい学校もいいと思う。

志村委員：でも小さい学校は弊害もある。サッカーなどができなかったり、競争力もなくなる。しかし、きめ細やかな指導が受けられる。

高橋委員：小さい学校は校長先生が生徒のおじいちゃんおばあちゃんのことを分かっていたり、地域のお世話になった方を招待して謝恩会を開いたりしている。勉強以外の関わりが持てるのは、学校なり地域なりがそういう意思を持たないとできないこと。

　今の子は一つの事だけ目指しているためにすぐに挫折する。中学生になってから不登校をなくすのは無理だと思う。勉強しかしていないので、その挫折しか分からない。そこが一番の問題。

教育長：中学、高校卒業の時点で自分の目標とするものが見つけられるかと言ったらほとんどの子が見つけられない。失敗することは問題のないこと、逆に何くそと思ってやるような心の強い子どもに育ってほしい。

中村委員：私は７月の事件を受けて、家庭、学校、地域から愛されて育ってほしいという漠然としたタイトルが頭に浮かんだ。一番は社会に出ていく力、二番目は自分を幸せにする力、三番目は失敗しても立ち直る力、四番目にモラルやマナーをきちんと理解できる力が大事だと思った。何が必要かというと、愛された記憶。幸せな子ども時代を過ごすことはとても大事。ローマ帝国時代の「恐怖の実験」というデータがでは、オムツ替えやミルクなどを全く目を見ず、笑いかけず、語りかけず、抱っこもせずに育てた場合、５５人中２７人が２歳前に死亡、１７人が成人前に亡くなった。残りの１１名も何らかの障害を持つ子が多かったという結果がある。生物学者の方は、人間に不可欠なものは、水、空気、食物、コミュニケーションと言っている。最近言われているのは、つながりや友人が多い人は長生きするという話もある。昔のデータと今のデータがつながっている。コミュニケーションは双方向なので、総合学習でコミュニケーションを学んでいると思うが、話す力、聞く力、まとめる力が必要になる。今の時代は、大人も子供も忙しいため余裕も減っているし、時間もない。個人で過ごす時間が長いので、よりコミュニケーションが大事だと思う。

　ナインティナインの岡村さんが精神的な病気になった時に、とてもつらかったがお母さんとは手をつないで眠れたと、復活した後に言っていた。タッチングという手法は普段から信頼性、関係性がないとできないこと。親は愛して育てないといけないし、子どもは愛されて育ってほしいというのが一番言いたいこと。家庭は、親子の最高で最強のコミュニティでないといけない。安心できる場所、信頼関係がないと成り立たない。学校は親以外の大人からたくさん学べる場所。家庭より長くいる場所なので、よりコミュニケーション力が重要になる。地域

で大切なのはあいさつ。イベントでは普段付き合わない人と楽しむことができる。きちんと愛された記憶を持って、社会に出てほしいなと思う。

教育長：愛された記憶は大事だと思う。いろいろな事件、事故があった時に、自分の子供の頃の記憶が出てくる。

「国見の子どもたちに望むこと　こんな子どもに育って欲しい」について３人の方からお話いただいたが、共通する部分は、失敗しても立ち直る力がほしいということ、それを育むのは地域と学校と家庭の三つがしっかりとしていないとダメだと思った。

高橋委員から出された高学歴を求める、求めないについては、わが子にはいい企業に入りなさいと言ったことがない。上の子には自分で決めるようにと言っていた。下の子には福島のためになれと伝えてきた。

学力というよりは、人としてのモチベーションが大事だと思った。

志村委員：我が子に迷うなら普通校に行きなさいと言ったことがあった。今思えば、間違っていたなと思う。小さいうちに自ら将来何になりたいか、何に興味があるのか、子どものうちに選択ができるように育てていかないといけなかったと反省している。

髙橋委員：私は国見にいるおじいちゃん、おばあちゃんが明るく元気に仕事をしていることがベストだと思っている。お父さん、お母さんも一生懸命生きがいを持って輝いている姿を見せたら、「何になりなさい」という必要がない。まず国見町で輝いているあつかし学級のおじいちゃん、おばあちゃんを育てませんか？

地震で感じたが、何も手につかず立ち直れないような人は仕事がない人。人間一番は歳をとっても仕事だと思う。お勤めしてなくても、孫守りなど仕事がある人は何があってもめげない人。子どもをどうにかするより、上の世代が生き生きと国見で生きるということが大事。行政ができることはお年寄りが輝ける場を提供してくれることが一番だと思う。

中村委員：前に教育長と話したことがあったが、子どものなりたい職業に農業が入ってこない。農業をやっている方が子どもを後継者にしたいと思っているのかなと。

我が子も受験生で、高校は普通校に・・と言っている。塾の先生が言っていたが、今の時代は先が読めないため普通校を目指し、とりあえず大学に入るという子が増えている。中学生の住んでいる世界は狭いので、もっといろいろな世界を見てから自分の進路を決めてもいいと思っているので、普通科で幅広く勉強をしてそこでいろいろなものを見て決めてほしいと思っている。

髙橋委員：普通高校でもいいと思う。先ほど教育長が言っていたように、15 歳、18 歳で自分の将来の姿なんて想像できない。一番言いたいことは、いつでも方向転換できる、それを自分の責任で決める、自分で決めたことなので人のせいにしない生き方をする。普通科でもよい。ただ漠然と学校に行かないように仕向けないといけない。

教育長：選択する力が大事。少し後押しをしてその力をつけてあげれば、普通校に行って

も大学に行っても、その力で選択していくことができればよい。基になる指標が学力だけではないということが大事。

大勝課長：（子育ての説明あり）

東海林次長：（子育ての説明あり）

教育長：農家に跡継ぎがいない、後継者がいないのは、昔は親が農業をやれとは言わなかった。農家はひどいなどと言われてきたので継ぎたい人がいなかったと思う。でも今は社会的に価値観が違うのは当たり前になり、国見のビジネス訓練所にも研修生がコンスタントに入ってきてくれたり、国見で農業をやる人も出た。少し変わってきたように思う。学力、学歴だけ大事と表立って言う人はいないが、学力はある程度欲しいかなというのがあった。でも今はそれだけじゃないと感じてきている保護者さんや大人が多くなってきていると思う。

髙橋委員：大学で遊ぶのは人間の幅を広げる。高校を出て会社に入っていたら知り合うことがなかった人と夜中まで遊んだり、それを身に着けることも大事だと思う。大学を出てから働くと、ゆとりと自信が出る。だから漠然と大学に入って、遊んで、反省して、それもいいと思う。

志村委員：息子が就職で方向性を決める時期になった。今が大事な選択の時期で、できれば国見に戻ってきてほしいと思っている。

中村委員：自分が高校生のときは社会を見ないといけないと思い、いろいろな職種のバイトを経験した。いろいろな人と付き合えたことなど、それが今でも財産になっている。勉強だけではない経験も大事だと思った。

教育長：髙橋先生にお聞きしたいが、選択する力や失敗しても挫けない力の話があったが、小中学校の現場の中で先生方はどんな思いで教育をしているのか教えていただきたい。

指導主事：中学生は、最終的に高校受験がある。自分の行きたい学校に入れるように後押しするのが中学校の先生。今はいい学校に入れるのではなく、子どもたちが行きたい学校に入るのが一番だと思っていると思う。実際の現場は少し背伸びすると行ける学校をねらわせることもある。行きたいところを行けるところだと思うと安心してしまい勉強しなくなることがある。昔は２月の推薦で決まってしまうと勉強しなくなることがあった。その反省があり今は推薦入試も一般入試も一発勝負の３月になった。

前回の教育課程の変更の時に新しくキャリア教育というものができた。小学生の場合は、地域の方に来ていただいてこんな人がいる、こんな仕事があるということを学び、中学生は自分たちでお仕事図鑑などを使って調べて、その職業になるにはこんな学校に行くなど、自分で見つけられるように先生方は支援している。

学校としてはしっかりとした学力を身につけさせて、自分の希望するところを目指させることが最終的な目標となる。くにみ学園を作るときに人数が少なくなるのは確実であり、１０年後は小中とも単学級になる。その時に単学級の良

さや１年生から９年生まで連なっている良さをうまく発揮できるくにみ学園を皆さんからご意見をいただきながら作っていけたらよい。

自分の経験上、複式学級はとても良い。子どもが成長する。教える時間は半分になるが、その分一生懸命やるし、自分で勉強する訓練を身に着ける。複式で頑張っていた子が中学校で生徒会長になった子もいる。国見も単学級になったら単学級の中でどのように子どもたちを指導していくかをみんなで考える、義務学校になれば１～９年生まで先生がどの学年をみてもいいので、いろいろな目で見ることができる良さがあると思う。

髙橋委員：小さいうちからの成功体験は大事。複式学級から生徒会長になったことなど何かで認められている子は生きていける。

指導主事：複式の場合、学校自体が小さいので先生方全員関わるし、ＰＴＡ、地域の方たちも関わるので、全員で育てている感じがある。

髙橋委員：小坂や大木戸も学校を中心にしていてよかった。

志村委員：運動会も地域やＯＢ、在校生、対抗リレーがあった。これはこれから地域の携わり方で国見小学校でもできる。

教育長：小坂も大木戸もコロナがなければ今の地域の人たちが中心になって何かやっていこうという力にあふれているように感じる。小坂は今でも運動会は続いている。続いていることが地域の強さであったり、子どもたちも地域の大人と関わる時間が多いのでプラスになると思う。

髙橋委員：あの子は誰の孫だとか、地域のみんなが自分のことを分かっていると、言われなくても悪いことをしてはいけないと思って育つ。昔はそうだった。声をかけられたり、名前を呼んでもらえると子どもたちはうれしい。一人でいても声を掛けられるといいと思う。

中村委員：あいさつ運動はいまいち浸透していないように思う。子どもたちは知らない人と話してはいけないと教育を受けているので、あいさつしても逃げていく。

教育長：でも街頭指導で立っていた時に、去年より今年の方があいさつを返してくれる。去年の印象は目を見ないであいさつをする感じだったが、今年は顔を上げて、目を見てあいさつしてくれる子が多かった。佐藤校長が「あはは」の指導をされていて、あいさつ、はきもの、はい、をしっかりやりましょう、と指導している。

続いてワークショップのまとめのペーパーの中で、「どんな子どもになってほしいか」について、「自分の夢に向かって意欲的にチャレンジする子」や「失敗しても戻れる強さを持つ子」、「他者との違いを認めて尊重できる子」というワードがあがってきた。「どんな環境があればよいか」については、「多様な大人とつながる機会」、「失敗が容認される環境」安心して失敗できるとか、再チャレンジできるというワードが出てきた。「どんな学校になればいいか」については、「社会を体験から学べる学校」、「町内外の大人と接する機会が多い学校」とある。地域学校協働本部の方にボランティアで入っていいただくことが多いが、外の大人をお呼びして授業を行ったり、お金の授業を民間の方にやってもらうなど、多

様なやり方があるのかなと思う。新しい力をつけてもらうことができる。
　今はくにみ学園の構想の考え方の部分を議論している。今日の議論もつながってくると思う。町の幼稚園、小学校、中学校の先生方ともワークショップをしてもらったので、次回はまとめたものをお示ししたい。
これから大事になるのは、こういう子どもたちを育てるためにどんな教育課程を作っていくかが大事になる。

〇その他

・８月教育委員会は８月１９日(金)午後５時１５分より観月台文化センターで開催予定。

18. 閉　　会　　午後７時３５分

上記記録の正確なることを認めここに署名する。

令和４年７月２２日

議事録署名人

１番委員

２番委員

会議書記　　主任主査兼学校教育係長　　五十嵐　佐和